

福祉教育なら社協におまかせ♪

南区社会福祉協議会では、ボランティアさんの協力を得て、福祉教育に積極的に取り組んでいます！
今年度の取り組みの中から、3ケース紹介します。

ケース1 本城中学校 車いす外出体験

中学1年生185名を対象に実施。実際に車いすに乗って、近くの駅や公園、神社、お店などにお出かけし、街中の障害などを体験しました。



車いすのまま階段を昇降する機械にのせてもらいました



坂を下る時は、バックで慎重に下ります

ケース2 大生小学校 交流体験

大生小学校 交流体験

6年生26名を対象に実施。視覚障害の理解を深めるため、3回コースで体験しました。初日は、ガイドヘルプ体験で、ガイドの方法や、「見えない」ことがどういうことか学びました。2日目、3日目は交流体験で、生徒は趣味や移動手段等について色々と質問しながら楽しく交流しました。



アイマスクをして階段を上ります。



交流の様子

ケース3 南区役所 高齢者・障害者体験研修

南区役所の職員12名を対象に実施。窓口業務等で、高齢者や障害者の立場に立った適切な対応を身につけるための研修を開催しました。



高齢者疑似体験セットをつけて、住民票を書いてみました



最上段の飲み物は、一番下のボタンを押せば買えます

南区社協では、学校だけでなく、企業や商店街、地域団体（推進協、町内会、老人クラブ等）も対象に福祉教育の相談に応じています。また、福祉用具等の貸出も行っています。関心のある方は南区社協までお問い合わせ下さい！

プログラム内容

高齢者疑似体験、視覚障害者ガイドヘルプ、点字、車いす、手話、認知症、こころの健康講座(統合失調症)など

まいの会を紹介するんだまい★

南区ボランティア連絡協議会内の「まいの会」は、南区社協のシンボルキャラクター「まいまい・あいあい」のグッズを作成している有志のグループです。

毎月第一月曜日に生涯学習センターへ集まり、製作しています。

グッズは、社協窓口や各種イベントで販売し、収益はすべて南区の福祉のために使われます。



新作グッズできました！

配色いろいろ♪

- ・ストラップ ……200円
- ・マグネット付置き物 ……200円
- ・マカロン型コインケース…300円



区民まつりでも販売！
とっても好評で
売り切れましたよ。



お問合せは南区社協まで TEL 823-2035

第2次地域福祉活動計画(ひまわりプラン2)進行中!

南区内障がい児者施設等情報誌「さわやか」の最新版ができました!!

南区障害者自立支援協議会との協働により、障がい児者の施設や関係団体の情報を写真入りでわかりやすくまとめました。南区内の福祉サービス事業所等をお探しの方は是非ご活用ください。



社協窓口で
配布しています

ここバリ通信

～“心のバリアフリーを広げる拠点”～
「ここバリすぽっと」をご紹介します！

第2回 炙びすや（化粧品）鳴浜町1-48（TEL：611-2802）



Q 「ここバリすぽっと」としての想いや、お店として取り組んでいることを教えてください。

A 65年前に先代が店をはじめてから「地域の一番店」という想いでやっています。この辺りも高齢化が進んでいますので、シルバー客を押して来られる方でも通れるよう、店内通路の幅をとっています。また買う、買わないに関係なく、笑顔で帰られているかを気にするようにしています。



店主の富田さんご夫妻



商店街の組合員等を対象とした認知症サポーター養成講座

Q 柴田商店街振興組合の理事長もされていますが…？



A 商店街組合として周辺の施設等とも関わりができます。昨秋には新設の老人ホームで商店街の組合員や周辺住民を対象として「認知症サポーター養成講座」を開催しました。さらに、メイク（お化粧）ボランティアでの訪問予定もあります。きれいになることで笑顔のあふれる明るくやさしい街になれば、と思っています。



～ひとこと～（取材者：小酒井 廣さん）

店主の富田さんはこの街に生まれ、商店街のリーダー役を務めておられ、ソフトな語り口で地域への想いを語ってくださいました。誰でも入りやすいやさしい店・街づくりをすすめてかれているお話をうかがい、店内も居心地の良い空間でした。このようなお店が多くなれば、笑顔の人が集う商店街になると思いました。ありがとうございました。

「統合失調症」ってなあに？～「こころの健康出前講座」から～

①突然ですが、このような症状が続いている方はいませんか？

- ▼病気を疑うサイン▼
- 眠れない
 - 不安、焦り、イライラする
 - 音や光に敏感になる
 - 怒りっぽくなる
 - 無気力
 - 気分が変わりやすくなるなど

②統合失調症の症状には、妄想や幻聴、幻覚といった「陽性症状」と集中力がなくなるとか、落ち込むなどの「陰性症状」とあります。



③実は「およそ100人に1人」の割合で「10代後半～20代」で発症することの多い、わりとありふれた病気なのだと思います。



④「統合失調症」と診断された場合は、クリニックに通い薬を飲み続けながら、症状をコントロールしていくことが大事になります。同じ悩みを抱える仲間や家族が集まる場もあります。



⑤大事なのは、「早期発見」「早期治療」。最近のクリニックはとてもきれいで、入りやすい工夫がされています。
悩んでいる方がいましたら、まずはご相談を。



★このイラストは、大同大学漫画研究部の学生によるものです。

★統合失調症を中心に、心の病気について学ぶ「こころの健康出前講座」を開催しています。出張依頼は社会福祉協議会まで。